

2019年度 「水俣・熊本みらい基金」 助成事業報告書

企画テーマ	水俣病関連資料保存のための環境整備
取り組み実施期間または日時	2020年4月～8月

【取り組み目的】

1. 考証館展示資料劣化防止対策
2. 相思社資料室収蔵中の資料の劣化防止対策
3. 資料活用環境の整備

【取り組み内容と成果】

・ 温度計、湿度計を購入：資料室内、考証館本館、展示ケース内の温度湿度を計測するため温度計、湿度計を購入した。その結果、外気の湿度や天候に大きく左右されるものの、高い日では80%を超える高湿度の状態であることが判明した。

・ 資料室の除湿機・展示ケース内除湿剤の設置
 計画書では、第1資料室と第2資料室それぞれに除湿器を1台ずつ購入する予定だったが、広さと常時の湿度を計測した結果、第1資料室に1台だと効果が薄いことが判明したため2台とも第1資料室に設置した。設置に伴い排水ホースの配管工事を行った。資料室の入口にあたる部屋に湿気がたまると資料室内部も湿度が高くなる傾向がみられたので、網戸にして空気を入れ替えられるようにした。結果、除湿器設置後は第一資料室内常時50%～60%台の湿度が保たれるようになった。

考証館内は外気が入りやすい建築構造になっているため、除湿器を入れたとしても湿度を保つことは難しい。そのため、紙や実物を展示しているケース内に調湿剤を入れ、劣化から守る処置を行った。

・ 資料室の床下工事：地元大工さんに相談したところ、耐震のためには特注の鉄骨を設置する必要があり総額約120万円にも上る工事となることが判明し、現在の資金状況では難しいため耐震工事は断念した。代わりに、資料室の床下を支える柱の補強のための留め具を設置するための工事を行い、多少の揺れや衝撃への耐性を強化した。

・ データベースの構築と公開：以前使用していたデータベースがインターネット環境の変化から使用できなくなっていたため外部への公開を停止していたが、新たに収蔵資料の目録をデータベース化し、外部からアクセスできるよう公開した。インターネットの専門知識を有さない職員でも継続的に管理できるよう、外注のデータベース構築システ

ムを購入した。

・布資料の劣化防止処置：展示中の怨旗やゼッケンのほか、収蔵中の横断幕などの防虫処理を行う予定にしていたが、専門家に相談したところ、すでに発生している劣化を考慮すると計画書に記載したような燻蒸を行うよりも定期的な虫干しのほうが効果的だと助言を受けた。そのため、梅雨入り前の湿気が少ない5月にすべての布資料を集会棟に広げ、空気にあててホコリを落とし、防虫剤とともに収納した。結果的に熊本・水俣みらい基金の助成を使った活動は行わなかったが、助成をきっかけに専門家に相談し、適切な処置を行うことができた。

【備考欄】

・鉄製の展示物(ネコ実験の小屋)にさび止めを施す予定であったが、新型コロナウイルスの影響から助言・お手伝いを申し出て下さっていた資料保存の専門家の来水が難しく今年度は実施できなかった。